

一番割遺跡発掘調査概報

—平成12年度—

2000

宇治市教育委員会

例 言

1. 本書は、宇治市教育委員会が宇治市五ヶ庄二番割5番地の3において実施した、一番割遺跡の発掘調査の概要を取りまとめたものである。
2. 本発掘調査は、宇治市が当該地で計画した道路開発に伴い、文化財保護法の規定に基づいて実施したものである。
3. 本発掘調査は平成12年7月17日に開始し同年8月18日に終了した。発掘面積は約150平方メートルである。
4. 発掘調査は下記の体制で実施した。

発掘調査責任者：宇治市教育委員会 教 育 長 谷 口 道 夫
発掘調査担当者：宇治市歴史資料館 文化財保護係 主 事 浜 中 邦 弘
発掘調査事務局：宇治市歴史資料館
発掘調査参加者：山中 繁・小谷紗代・吉田椋善・久保千恵子・志村みどり・畑 陽子・坪井啓子・西田倫子
堀 典子・足立千春
5. 実施にあたっては下記の方々よりご協力いただいた。感謝したい。(順不同・敬称略)

宇治少年院、宇治少年院自治会、大和田区、大和田第一自治会、見晴台町内会、おうばく分館自治会、宇治市土地
開発公社
6. 本発掘調査の関係資料及び出土品は宇治市歴史資料館が保管している。
7. 本書の編集は宇治市歴史資料館が行い、実務を荒川史・浜中が担当した。

序

一番割遺跡は、黄檗山萬福寺の南方に位置する遺跡で、今回が初めての発掘調査であったことから、この地域の歴史を知る良い機会として期待がもたれました。

発掘調査成果の具体的内容につきましては後述するとおりですが、明確な遺構については検出されなかったものの、少量ながらも古墳時代の遺物が出土し、周囲に遺構の存在が想定できたことは、極めて有意義であったと考えています。

本書は、この発掘調査成果を概報としてまとめたものです。本書が多くの方々の目にふれ、広く宇治の歴史解明の一助となり、文化財保護意識の高揚に役立つことを願うものです。

最後になりましたが、発掘調査の実施について御理解・御協力いただきました方々を始め、調査期間中や整理期間中に御指導賜りました関係各位に心よりお礼を申し上げます。

平成12年12月

宇治市教育委員会

教育長 谷口道夫

I. はじめに

本書は、宇治市教育委員会が宇治市五ヶ庄二番割5番地の3における黄檗山手線道路建設事業に伴って実施した、一番割遺跡の発掘調査成果の概要である。

一番割遺跡は、今回の調査対象地の南側（字一番割）で須恵器片が表採されたことから命名された遺跡である。想定された遺跡の範囲は、東西300m、南北150mと東西に細長く延びる規模的には中規模クラスの遺跡である。一番割遺跡については、これまで調査が一度もなされなかったことから実態の把握できていない遺跡の一つとされてきた。近隣では遺跡を見出だせないものの、南方には飛鳥時代の瓦工房である国史跡隼上り瓦窯跡、弥生時代後期の高地性集落として著名な羽戸山遺跡等の遺跡密度の濃い地域が展開する。北方には江戸時代初期に隠元僧都（1592～1673）によって開山された黄檗宗萬福寺が位置する。

調査期間は、平成12年7月17日から同年8年18日までのべ20日間で、調査面積は約150㎡である。

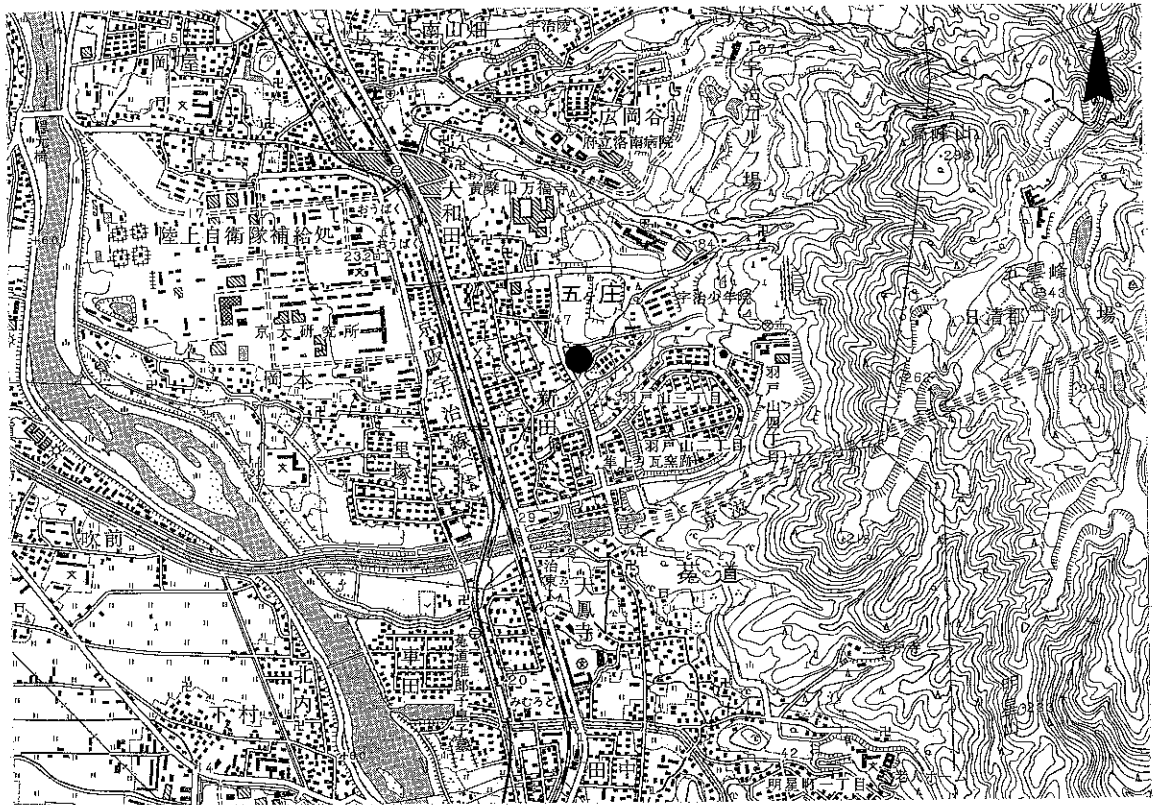


fig.1 調査地の位置（丸印，1:25,000）

II. 調査地の環境

宇治市では、市域を南北に貫流する宇治川を境として西岸を宇治市西部、東岸を宇治市東部と一般的に呼称する。一番割遺跡の所在する五ヶ庄一番割・二番割は、宇治市東部のほぼ中程に位置する。一番割遺跡は小新田川と新田川が合流する地点を中心として東西に細長く展開する遺跡である。調査地はその合流地点よりわずかに下流の北岸付近に位置する。現地形は、東から西に向かって緩やか傾斜する斜面地状となっている。

今回調査地との関連が想定されるのが、調査地北方に位置する萬福寺である。萬福寺は、万治2年（1659）に山城国宇治の地に寺地が幕府によって与えられ、寛文元年（1661）5月8日、四代将軍徳川家綱を大壇越とし、明僧隱元隆琦を開山として開創された禅宗黄檗派の総本山である。現在の萬福寺は、中心伽藍と十九の子院が存在する。かつては三十三の子院を数える一大寺院であった。延宝年間（1673～1681）の七堂伽藍がほぼ整った頃の景観と考えられる「萬福寺境内図」をみると、中心堂宇の南側に塔頭が数多く展開していたことが伺い知れる。現況との照合から失われた子院の多くは、この南側の地中に埋蔵されているものと考えられる。「萬福寺旧境内遺跡」とも理解されうる。今回調査地については、この古絵図と比較してみると、最盛期萬福寺の南側境界ライン付近に位置するものと想定される。



fig. 2 調査地周辺の地形図

Ⅲ. 発掘調査状況

A. トレンチの配置計画

今回の開発対象地は、東西約110m、南北約20m、面積約2,200平方メートルを測る東西に細長い土地である。開発目的が道路（黄檗山手線の一部）の敷設であるため、調査対象地の敷地は細長く、また敷地の北側は現在も道路として利用されており、敷地内に発掘事務所・詰所・トイレ・道具置場等を配置すると、当初予定した発掘調査を実施するには困難なことから、これらについては、道路予定地の南隣接地（五ヶ庄二番割5-2）を土地所有者である宇治市土地開発公社にご承諾をいただき、そのエリアを使用させていただいた。また当初計画のトレンチは1本の細長いトレンチを予定していたが、後述するように試掘グリッドの結果、計3カ所のトレンチに分けて調査を行った。

B. 発掘調査の経過

発掘調査以前の現地は雑草が生い茂る荒蕪地状となっていたため、まず草刈り作業を行いその後発掘調査に取りかかった。発掘調査は、まず表土を機械力（重機）で排除することから開始した。土層の状況を確認するために、調査地の西側にグリッドを設定し、その調査結果をみてト



fig. 3 調査前の状況（西から）



fig. 4 トレンチ配置状況（昭和57年当時地形図使用）

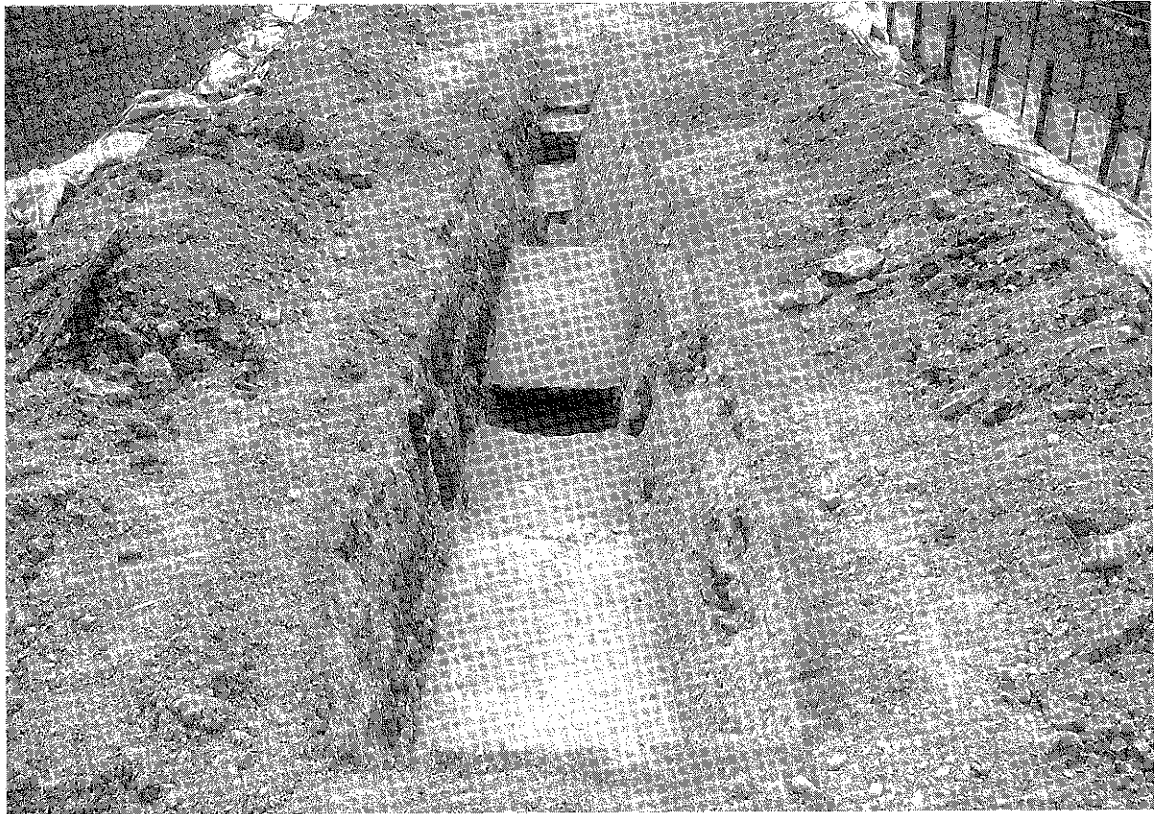


fig. 5 1 トレンチ全景（北東から）

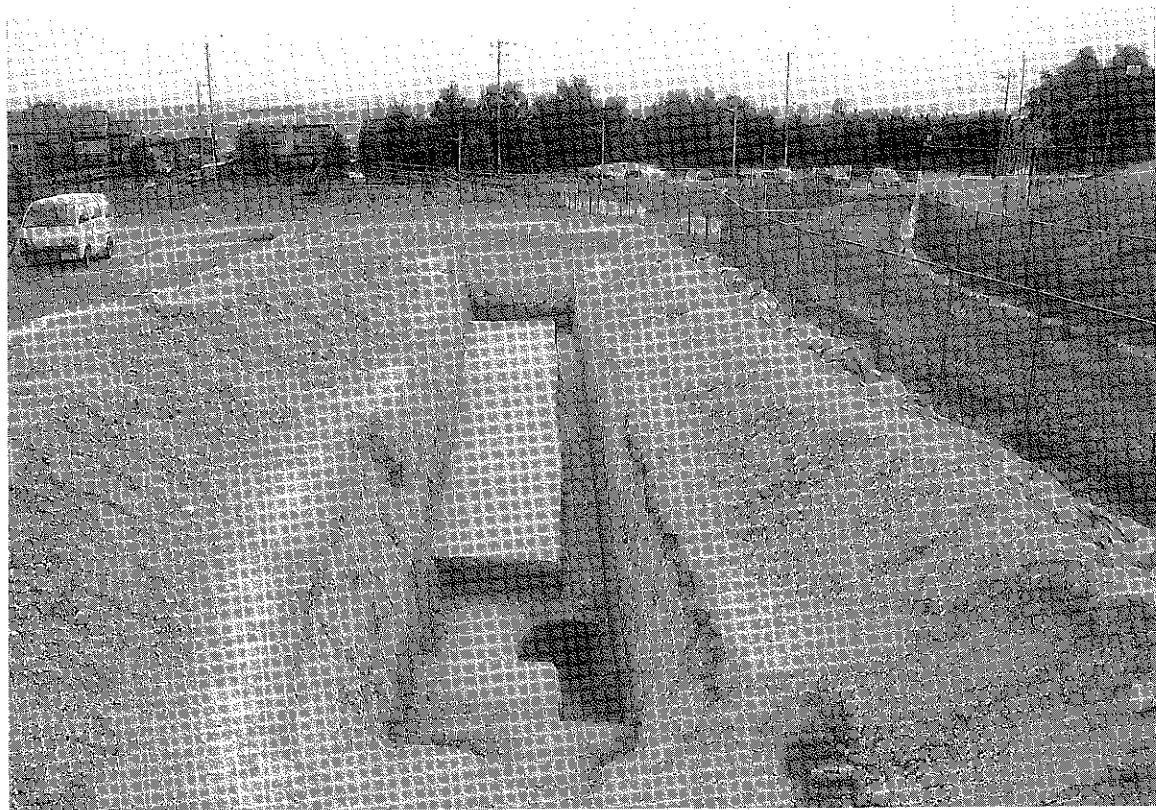


fig. 6 2 トレンチ全景（北東から）

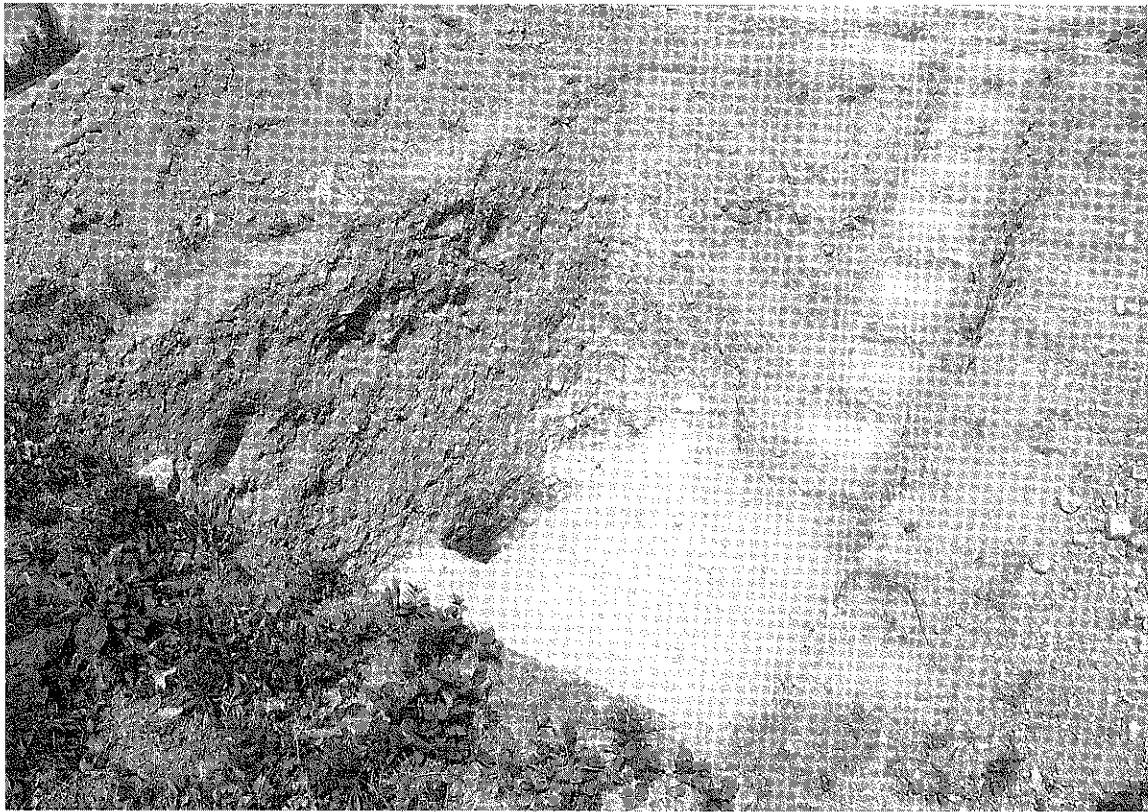


fig. 7 3トレンチ全景（南西から）

レンチの具体的な配置を考えることとした。その結果、予想されていたよりもはるかに近代の盛土が多く堆積しており、十分な置土場の確保が必要と理解された。このため、トレンチは間を挟みながら計3カ所に分けて設定し、その間を置土場として調査の効率化を計った。全体的に近代の盛土が1～1.5m程の厚さでみられたことから、その盛土を除去した後は、人力による掘削を行って調査を進めた。ちなみにこの盛土は、標高と昭和57年作成の地形図から、昭和57年以降に造成されたものと理解された。

遺構の有無を確認するために、掘削・精査を繰り返しながら少しずつ土層を下げていった。程無くして古墳時代のものと思われる須恵器片が1点出土した。この遺物の出土によって遺構の存在が期待されたが、明確に遺構と断定しうるものがなく、また遺物の出土もないまま、近代盛土除去後50～80cm程下で礫を多く含んだ砂質系の土層があらわれた。この層をもって地山層と判断し、トレンチ内では明確な遺構はないものと判断した。その後、掘削を終了して調査記録をとるための全面精査を実施した。

精査後、トレンチの平面実測、土層断面図等の記録をとり、その後全体の写真撮影を行って調査記録をとっていった。

埋め戻しは、重機によって行い、埋め戻し終了と同時に現地を調査前の状況に復旧して現地を撤収した。発掘の全作業は8月17日に終了した。調査面積は結果的に計150㎡となった。

IV. ま と め

A. 発掘調査の成果

前章までに、今回の調査概要を述べてきた。ここでは簡略ではあるがまとめをしておきたい。

今回の調査では、遺構の検出はなかったものの、若干の遺物から周囲に古墳時代の遺構が存在する可能性を指摘することができた。現地形から考えると北側が予測されるが、北側には現在京都大学のグラウンド等があり、その造成状況からみて遺構が存在する可能性は極めて薄いと思われる。しかしながらこの黄檗地域で本格的な調査が実施されたのは今回が初めてであり、わずかな調査成果ながらも貴重な意義をもたらしたものと考えられる。黄檗地域については明治以降、軍事関係による諸施設が広範囲にわたって設置されたこともあり、それ以前の状況については把握しにくい状況にあるが、この一帯は前述したように萬福寺の旧境内ともいえるエリアにも入るところであり、極めて重要な地域といえる。今回のようにわずかな資料であっても蓄積がなされることによってしだいにその地域の歴史的景観が蘇ってくるのであり、今後とも十分配慮して調査を行っていきたいと思う。

B. 未調査範囲の対処

今回の発掘調査は、文化財保護法第57条の3の規定による届出に基づくものであり、工事内容に照らし合わせて道路部分を発掘調査したものである。調査地全体が道路開発部分にあたり、置土の関係上、当初計画より掘削できなかつたために、未調査部分が予定よりも多くを占めることとなった。このため未掘箇所については、慎重工事を指導する必要がある。

抄 録

ふりがな	いちばんわりいせきはくつちょうさがいほう							
書名	一番割遺跡発掘調査概報							
副書名								
巻次								
シリーズ名	宇治市埋蔵文化財発掘調査概報							
シリーズ番号	第49集							
編著者名	浜中邦弘							
編集機関	宇治市歴史資料館							
所在地	〒611-0023 京都府宇治市折居台1-1							
発行年月日	2000年12月28日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	期間	面積	原因
一番割遺跡	宇治市五ヶ庄 二番割5-3	26204	28	34° 54' 22"	135° 48' 42"	000717 ~ 000818	150㎡	道路建設
収録遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
一番割遺跡		近世		瓦・須恵器				

(宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第49集)

一 番 割 遺 跡 発 掘 調 査 概 報

発行日：平成12年12月28日

発行者：宇治市教育委員会

編集：宇治市歴史資料館

〒611-0023 宇治市折居台1-1

TEL 0774-20-1680

製作：新進堂印刷所

